

令和7（2025）年度
全国学力・学習状況調査結果における士別市の成果・課題について
【令和7年9月10日 士別市教育委員会（学校教育課）】

令和7（2025）年度の全国学力・学習状況調査は、令和7年4月17日が調査実施日であり、士別市（教育委員会）では、全ての小・中学校（小学校6校、中学校4校）で実施しました。（端末を使ったオンライン調査は学校ごとに文科省からの指定日に実施しました。）

本調査結果から今後の学習指導の改善を図るため、文部科学省国立教育政策研究所（以下「国研」）提供の「令和7年度全国学力・学習状況調査の概要」及び「士別市の結果」に基づき、士別市教育委員会として次のとおり分析結果をまとめました。

（調査問題及び解答は国研HPに掲載されています。）

1 調査の目的

国が示した本調査の目的は、次のとおりです。

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 本調査実施に関する士別市教育委員会の基本的な考え方

士別市教育委員会は、本調査の目的を踏まえ、定められた方法に従って調査を実施しました。

- (1) 調査は、これまで各学校がそれぞれの計画に基づいて実施している標準学力調査などと同様に、通常のエ育活動の一環として実施しました。
- (2) 調査結果は、児童生徒の学力の一端であり、本調査により測定できるのは、学校における教育活動の一側面に過ぎないことを踏まえる必要があります。そこで、学校の序列化や過度な競争につながらないよう配慮する視点から、各学校ごとの結果は公表はせず、士別市における学力傾向を明確化し、今後の授業改善等に資するために、士別市全体としての数値結果を公表します。
- (3) 教育委員会と各学校は、児童生徒の学力・学習状況のそれぞれの課題を把握・検証することによって、より適切かつ充実した教育活動を推進します。

3 調査事項・実施日程

	調査事項	実施方式	日程
教科 調査	(小) 国語・算数・理科	冊子による筆記方式	4月17日(木)
	(中) 国語・数学		
	(中) 理科	オンライン(MEXCBT)	4月14日～4月17日
質問 調査	(小) 児童質問紙	オンライン	4月18日～4月24日
	(中) 生徒質問紙	オンライン(MEXCBT)	4月15日～4月17日
	学校質問紙	オンライン	4月1日～4月17日

4 調査対象 (1) 小学校 第6学年 (2) 中学校 第3学年

5 調査事項及び手法

(1) 児童生徒に対する調査

- ① 教科に関する調査は(国語、算数・数学、理科) ※中学理科のみ1人1台端末で実施
出題内容はそれぞれ次の(ア)と(イ)を一体的に問うものです。

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

(イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査問題は現行学習指導要領(平成29年告示)に示された目標及び内容等に基づき作成

- ② 質問紙調査 ※小学校、中学校ともに1人1台端末で実施

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
本年度の主な調査項目は以下のとおりです。

- ・ 基本的生活習慣等
- ・ 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等
- ・ 学習習慣、学習環境等
- ・ 地域や社会に関わる活動の状況等
- ・ ICTを活用した学習状況
- ・ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・ 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳
- ・ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等(国語、算数・数学、理科)
- ・ 各教科に関する解答状況

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や(学校における)人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

本年度の主な調査項目は以下のとおりです。

- ・生徒指導等
- ・学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳の指導方法
- ・学習評価
- ・教科の指導方法（国語、算数・数学、理科）
- ・ICTを活用した学習状況
- ・特別な配慮が必要な児童生徒への指導
- ・小学校教育と中学校教育の連携
- ・家庭や地域との連携等
- ・家庭学習
- ・全国学力・学習状況調査の結果の活用

6 本市の参加状況

令和7年度の参加状況

	小学校		中学校		総 数	
	学校数 (校)	児童数 (人)	学校数 (校)	生徒数 (人)	学校数 (校)	児童生徒数 (人)
国 語	6	88	4	91	10	179
算数・数学	6	88	4	91	10	179
理 科	6	90	4	90	10	180

7 教科に関する調査の結果

令和7年度の調査結果

	平均 正答率	小学校			中学校		
		国語	算数	理科	国語	数学	理科 (CBT)
全 国	%	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	2.9/503
北海道	%	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	3.0/505
士別市	%	68 (68.2)	59 (58.8)	62 (61.6)	55 (55.3)	51 (50.8)	3.2/507

全国値：黒字

全国値以上：青字

全国値以下：赤字

*1：全国の数値は国研の提供データ（公立学校のみ）

*2：北海道の数値は道教委の提供データ（公立学校のみ）

*3：士別市の小数第1位は国研の提供データから市教委が独自に計算

*4：中学理科（CBT）の数値は、6問中の平均正答数／IRTスコア集計値

※以下使用しているデータは全て*1～4と同様

8 国研による教科に関する調査の結果（概要）

＊国研が示す各教科の学習傾向は、士別市の児童生徒にも共通して見られる傾向です。

(1) 国語

- ・ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに引き続き課題が見られた。
 - ・ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題が見られた。
- 文章を読む目的を明確にして必要な情報を捉えること、伝えたいことの根拠を明確にして書くことを意識させることが重要。

(2) 算数・数学

- ・ 数直線上の分数を捉えることや、百分率を倍の視点から捉え直し表現することに課題が見られた。
 - ・ あらかじめ書かれている図形の証明を評価・改善することに課題が見られた。
- 基準となる数を見出し数量の関係を捉えさせることや、数学的な用語や表現について知識の習得と習得した知識を活用する活動を行き来しながら理解を深めていくことが重要。

(3) 理科

- ・ 電気が通る回路を実際の生活の中でつくることに関する理解に課題が見られた。
 - ・ 化学変化を原子や分子のモデルで表すことに課題が見られた。
- 問題解決や科学的な探究のプロセスを通して、学習を通して身に付けた知識を活用することができるような指導の充実が重要。

9 士別市の学力調査の結果について

(1) 全体として

士別市全体として、小学校では、全道（札幌市を除く）の平均正答率〈以下「全道平均」と表記〉及び全国の平均正答率〈以下「全国平均」と表記〉を国語・算数・理科ともに上回りました。

中学校では、国語・数学ともに全道平均・全国平均を上回り、理科は平均正答数及びIRTスコア集計値で全道平均・全国平均を上回りました。

参考値として国語・算数（数学）について令和6年度の調査データを比較する形で掲載しました。また、令和7年度の中学3年生は、令和4年度の小学6年生時に本調査を実施しているので、経年比較のため掲載しています。

国研では年度ごとの各教科設問の「難易度の調整はしていません。」と説明しています。（令和7年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会より）

【令和6年度調査と令和7年度調査の結果比較（小学校）】

	平均 正答率	小学校（国語）		小学校（算数）	
		R6	R7	R6	R7
全 国	%	67.7	66.8	63.4	58.0
北海道	%	66.8	65.4	60.6	55.2
士別市	%	75.4	68.2	73.9	58.8

【令和6年度調査と令和7年度調査の結果比較（中学校）】

	平均 正答率	中学校（国語）		中学校（数学）	
		R6	R7	R6	R7
全 国	%	58.1	54.3	52.5	48.3
北海道	%	57.6	54.0	51.0	46.7
士別市	%	54.8	55.3	47.2	50.8

【令和4年度の小学6年と令和7年度の中学3年の正答率を比較】

	平均 正答率	国 語		算数・数学	
		R4	R7	R4	R7
全 国	%	65.6	54.3	63.2	48.3
北海道	%	64.4	54.0	61.1	46.7
士別市	% (全国差)	64.9 (-0.7)	55.3 (+1.0)	65.1 (+1.9)	50.8 (+2.5)

(2) 令和7年度 士別市小学校（6校）の調査結果について

① 【国語の結果】

		士別市	北海道	全 国
国語（全問題）の正答率		68.2	65.4	66.8
領 域 別	言葉の特徴や使い方に関する事項	81.3	74.8	76.9
	情報の扱い方に関する事項	68.2	61.8	63.1
	我が国の言語文化に関する事柄	80.7	80.6	81.2
	話すこと・聞くこと	65.5	65.0	66.3
	書くこと	73.9	68.3	69.5
	読むこと	56.3	56.1	57.5
問題別	選択式	66.3	63.3	64.7
	短答式	80.7	76.8	78.5
	記述式	58.0	58.1	58.8

本年度の国語の調査結果は全道平均を3ポイント程度、全国平均を1ポイント程度上回りました。（学習指導要領）領域別の正答率では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」の領域で全国平均を上回っていますが、問題別では記述式で全道平均・全国平均を下回っています。

②【算数の結果】

		士別市	北海道	全 国
算数（全問題）の正答率		58.8	55.2	58.0
領 域 別	数と計算	61.2	58.6	62.3
	図 形	59.9	53.9	56.2
	測 定	51.7	50.7	54.8
	変化と関係	53.8	55.4	57.5
	データの活用	62.3	60.9	62.6
問題別	選択式	66.7	66.4	67.2
	短答式	64.4	59.7	64.0
	記述式	38.6	31.4	34.9

本年度の算数の調査結果は全道平均を4ポイント程度、全国平均を1ポイント程度上回っていますが、（学習指導要領）領域別では、「図形」以外の領域で全国平均を下回っています。問題別では、他の出題形式と比較して、記述式の正答率が低くなっていますが、全道平均・全国平均を上回り改善の傾向にあります。

③【理科の結果】

		士別市	北海道	全 国
理科（全問題）の正答率		61.6	56.3	57.1
領 域 別	「エネルギー」を柱とする領域	46.1	44.8	46.7
	「粒子」を柱とする領域	54.6	50.7	51.4
	「生命」を柱とする領域	61.1	51.9	52.0
	「地球」を柱とする領域	70.0	65.9	66.7
問題別	選択式	56.5	53.8	54.7
	短答式	79.7	69.2	69.7
	記述式	53.3	44.3	45.2

本年度の理科の調査結果は全道平均を6ポイント程度、全国平均を5ポイント程度上回っています。（学習指導要領）領域別では、「エネルギー」を柱とする領域以外で全国平均を上回っています。問題別では、全ての出題形式で全国平均を上回っています。

(3) 令和7年度 士別市中学校（4校）の調査結果について

①【国語の結果】

		士別市	北海道	全 国
国語（全問題）の正答率		55.3	54.0	54.3
領 域 別	言葉の特徴や使い方に関する事項	52.2	48.8	48.1
	話すこと・聞くこと	54.9	53.8	53.2
	書くこと	51.9	51.4	52.8
	読むこと	63.7	62.0	62.3
問題別	選択式	65.2	64.0	63.9
	短答式	76.4	72.9	73.6
	記述式	25.0	24.3	25.3

本年度の国語の調査結果は、全道平均・全国平均を1ポイント程度上回りましたが、（学習指導要領）領域別では「書くこと」が全国平均を下回っています。問題別では、記述式が全国平均を下回っています。

②【数学の結果】

		士別市	北海道	全 国
数学（全問題）の正答率		50.8	46.7	48.3
領 域 別	数と計算	47.9	43.4	43.5
	図 形	48.1	44.9	46.5
	関 数	53.8	46.6	48.2
	データの活用	56.0	54.8	58.6
問題別	選択式	66.3	56.1	54.0
	短答式	52.9	49.9	52.0
	記述式	38.5	36.7	39.6

本年度の数学の調査では、全道平均から4ポイント、全国平均から3ポイント程度上回っています。（学習指導要領）領域別では「データの活用」が全国平均を下回っていますが、他の3領域で全国平均を上回りました。問題別では、記述式が全国平均を下回っています。

③【理科の結果】

(ア) CBTについて

令和7年度の中学校理科調査問題にはCBT(Computer-based Testing)が導入され、1人1台端末を活用したオンライン方式で実施されました。CBTの利点を活かすことで、次のような出題が可能となりました。

- 動画での観察、実験の様子を提示することができる。
- 化学変化等における原子や分子のモデルの移動が提示できる。
- カラーの静止画を使用し、細胞の写真等を画面上に提示できる。

(イ) IRTについて

令和7年度の中学校理科調査問題にはIRT (Item Response Theory：項目反応理論) が導入されました。IRTはテストの難易度や受験者の能力を考慮して、より正確に能力を評価するための理論です。中学理科の領域には物理、化学、生物、地学の各分野があり、合計点方式では難易度の異なる問題が混在する場合、受験者の力を正確に測ることが難しいという問題点がありました。IRTでは、各問題の特性と受験者の解答を分析することでより正確に推定することができます。

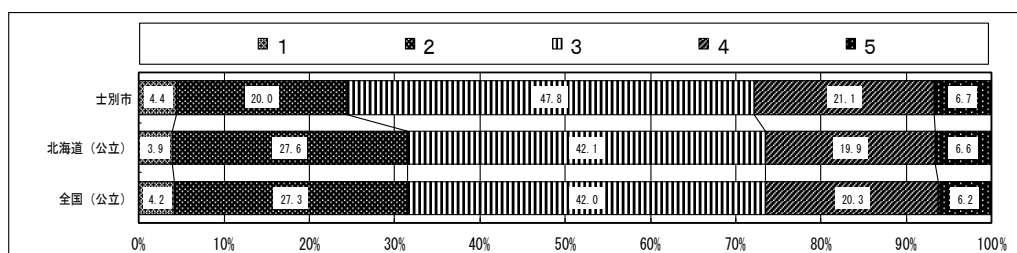
(ウ) 「IRTスコア」・「IRTスコア集計値」について

令和7年度の中学校理科調査問題では、各受験者には全26題の設問が用意され、全受験者に共通出題されたのは6問でした。残りの20題は各受験者が異なる問題に解答しています。詳細は(エ)を参照ください。

IRTスコアは、結果が5段階で表示され、標準スコアは3、最大スコアは5とされています。また各集団（都道府県、市町村、各学校等）のIRTスコア集計値は標準500からの±で表されます。

	士別市	北海道（公立）	全国（公立）
中学理科（共通6問）の平均正答数	3.2／6	3.0／6	2.9／6
中学理科IRTスコア集計値	507	505	503

IRTスコア（1～5）の分散比較



(エ) 中学理科の出題状況

本年度の中学理科における出題状況は、全受験者が解答する共通問題（6問）と、文科省が指定した日ごとに異なる問題（4問）、非公開問題（16問）の合計26問となっています。士別市の生徒であっても実施日が異なる中学校では違う問題を解答しています。このため結果は、共通問題6問中の平均正答数とIRTスコア等の両方で表されています。

(オ) 士別市の状況

平均正答数、IRTスコア集計値ともに全国値・全道値を越えています。また、IRTスコアの分散状況は全国・全道に比較して標準スコア2が占める割合が低く（20.0%）、標準スコア3が占める割合が高く（47.8%）なっています。

10 質問紙調査の結果について

質問紙調査の結果は、例年同様多くの質問項目（児童質問紙86問、生徒質問紙83問、学校質問紙が小・中ともに91問）があり、その中から北海道教育委員会が『調査結果のポイント』（令和7年7月31日）で取り上げている質問項目について士別市と比較しています。また、学校質問紙は士別市の学校数が小学校6校、中学校4校と分母が小さいので、結果は参考値として押さえ、%の提示とともに学校数（○/○校）を掲載しています。
（全国値以上：青字 全国値以下：赤字）

(1)検証改善サイクルの確立について

学校質問紙No.15（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。 *「よくしている」と回答した割合	小学生	44.3%	62.1%	83.3% (5/6校)
	中学生	40.1%	59.7%	50.0% (2/4校)

学校質問紙No.83（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・前年度の全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。 *「よく行った」と回答した割合	小学生	37.3%	61.2%	83.3% (5/6校)
	中学生	29.4%	55.8%	25.0% (1/4校)

・士別市の学校における教育課程のPDCAサイクル化は全国に比べ、「よくしている」と回答している学校が多い状況です。また「どちらかといえば、している」までを加えると、小・中ともに100%（全10校）が確立している状況です。

・本調査の利活用については「よく行った」と回答する中学校が25%（1校）と低いですが、「行った」までを加えると、小・中ともに100%（全10校）が活用している状況です。

(2)授業改善について

児童（生徒）質問紙No.28（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。 *「ほぼ毎日（複数の授業）」「ほぼ毎日（1回の授業）」と回答している児童生徒の割合	小学生	46.7%	57.5%	82.8%
	中学生	53.2%	62.0%	89.2%

児童（生徒）質問紙No.32（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	29.0%	28.8%	39.8%
	中学生	23.4%	23.8%	23.9%

児童（生徒）質問紙No.34（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・前年度までに受けた授業では、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	34.4%	34.8%	41.9%
	中学生	22.1%	22.0%	21.7%

児童（生徒）質問紙No.35（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	40.9%	43.0%	54.8%
	中学生	35.1%	37.2%	39.1%

児童（生徒）質問紙No.36（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	35.3%	29.8%	44.1%
	中学生	23.0%	22.5%	21.7%

児童（生徒）質問紙No.39（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	49.9%	50.9%	54.8%
	中学生	45.5%	47.3%	46.7%

学校質問紙No.32（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。 *「よく行った」と回答した割合	小学生	19.7%	31.2%	83.3% (5/6校)
	中学生	27.5%	35.3%	50.0% (2/4校)

学校質問紙No.62（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。 *「ほぼ毎日」と回答した割合	小学生	21.4%	36.3%	33.3% (2/6校)
	中学生	17.1%	29.2%	25.0% (1/4校)

・士別市では、ほぼ毎日授業でICT機器が活用されています。今後は児童生徒同士の交流等に一層効果的に活用することが課題です。 ・学級やグループで課題を設定し、話し合い、まとめる、などの学習活動を取り入れる授業が多く、特に小学校ではその割合が高くなっています。 ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」「自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付く」「よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる」などは、士別市も全国・全道と同様の傾向があります。
--

(3)小・中連携の推進について

学校質問紙No.72（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・前年度までに、近隣等の小（中）学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか。 *「よく行った」と回答した割合	小学生	20.5%	31.5%	0% (0/6校)
	中学生	28.3%	43.5%	0% (0/4校)

・士別市内の「よく行った」と回答した小学校、中学校がともになかったことは、齟齬のないところですが、教科の教育課程の接続や、教科の目標設定等を推進することが課題となっています。なお今後は義務教育学校の開校に当たり、小・中の一貫的な教育課程の接続を行っていく必要があります。

(4)望ましい学習習慣の確立について

児童（生徒）質問紙No.17（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。 *1時間以上の児童生徒の割合（回答の1～3を累積）	小学生	54.0%	47.9%	58.0%
	中学生	61.6%	53.5%	33.6%

児童（生徒）質問紙No.18（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）。 *1時間以上の児童生徒の割合（回答の1～3を累積）	小学生	19.6%	19.2%	17.2%
	中学生	13.7%	13.3%	13.0%

学校質問紙No.66（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。 *「毎日持ち帰って、毎日利用させている」と回答した割合	小学生	25.2%	25.4%	0% (0/6校)
	中学生	27.5%	33.5%	25.0% (1/4校)

学校質問紙No.80（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童（生徒）に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか。 *「よく行った」と回答した割合	小学生	38.2%	68.8%	83.3% (5/6校)
	中学生	34.5%	42.6%	50.0% (2/4校)

学校質問紙No.82（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学校では、児童（生徒）が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童（生徒）の学習改善に生かしましたか。 *「よく行った」と回答した割合	小学生	31.0%	48.5%	83.3% (5/6校)
	中学生	21.8%	31.0%	25.0% (1/4校)

・ 平日の家庭学習時間が1時間以上の割合については、小学生は全国、北海道に比べ高くなっていますが、中学生では低くなっています。

・ 学校以外でPCやタブレットなどのICT機器を勉強に使う割合は全国、北海道と同様に低い状況です。また、1人1台端末の家庭への持ち帰りは、「毎日持ち帰って、毎日利用させている」と回答した士別市の学校は中学校1校のみでした。

(5) ウェルビーイングの向上について

児童（生徒）質問紙No.5（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・ 自分には、よいところがあると思いますか。 ＊「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	47.3%	44.7%	61.3%
	中学生	40.7%	41.3%	33.7%

児童（生徒）質問紙No.6（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・ 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。 ＊「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	55.3%	56.3%	76.3%
	中学生	46.6%	48.3%	45.7%

児童（生徒）質問紙No.7（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・ 将来の夢や目標を持っていますか。 ＊「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	60.7%	60.7%	68.8%
	中学生	35.5%	36.2%	29.3%

児童（生徒）質問紙No.8（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・ 人が困っているときは、進んで助けていますか。 ＊「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	49.2%	49.4%	69.9%
	中学生	37.9%	37.3%	33.7%

児童（生徒）質問紙No.10（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・ 困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。 ＊「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	33.1%	31.8%	36.6%
	中学生	31.9%	30.8%	25.0%

・ ウェルビーイングの向上に関する質問（No.5～8及び10）において「当てはまる」と回答した士別市の児童（生徒）の割合は、全国及び全道の傾向と同様に小学生に比べ中学生が低い状況です。

児童（生徒）質問紙No.12（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・学校に行くのは楽しいと思いますか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	49.9%	45.0%	45.2%
	中学生	45.6%	40.9%	47.8%

児童（生徒）質問紙No.14（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・友達関係に満足していますか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	64.2%	61.1%	63.4%
	中学生	56.4%	56.3%	59.8%

児童（生徒）質問紙No.15（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。 *「よくある」と回答している児童生徒の割合	小学生	54.5%	53.7%	46.2%
	中学生	46.4%	45.4%	46.7%

・ウェルビーイングの向上に関する質問（No.12、14、15）において「当てはまる」（「よくある」）と回答した士別市の児童（生徒）の割合は、全国及び全道の傾向とほぼ一致していますが、士別市では中学生に比べて小学生の割合が低い結果となっています。

児童（生徒）質問紙No.13（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	32.6%	31.7%	37.6%
	中学生	31.4%	30.5%	22.8%

児童（生徒）質問紙No.27（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	33.8%	34.5%	48.4%
	中学生	22.4%	21.1%	14.1%

・ウェルビーイングの向上に関する質問（No.13及び27）において「当てはまる」と回答した士別市の児童（生徒）の割合は、全国及び全道と同様に中学生で低い傾向が見られますが、士別の中学生では、その割合が特に低くなっています。

児童（生徒）質問紙No.41（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	36.5%	36.8%	45.2%
	中学生	32.6%	34.2%	38.0%

・ウェルビーイングの向上に関する質問（No.41）において「当てはまる」と回答した士別市の児童（生徒）の割合は、小学生・中学生ともに全国及び全道を上回っています。

(6)教科の学習について

児童（生徒）質問紙No.45（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・国語の勉強は好きですか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	24.1%	25.4%	28.0%
	中学生	21.6%	25.1%	25.0%

・教科の学習についての質問（No.45）において「当てはまる」と回答した士別市の児童（生徒）の割合は、小学生・中学生ともに全国及び全道を上回っています。

児童（生徒）質問紙No.53（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・算数（数学）の勉強は好きですか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	33.7%	32.5%	32.3%
	中学生	26.5%	26.1%	22.8%

・教科の学習についての質問（No.53）において「当てはまる」と回答した士別市の児童（生徒）の割合は、小学生・中学生ともに全国及び全道を下回っています。

児童（生徒）質問紙No.46（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・国語の授業の内容はよく分かりますか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	35.9%	36.1%	46.2%
	中学生	25.4%	29.0%	19.6%

児童（生徒）質問紙No.54（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	41.7%	38.2%	52.7%
	中学生	30.1%	29.1%	25.0%

児童（生徒）質問紙No.61（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・理科の勉強は好きですか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	51.7%	56.9%	55.9%
	中学生	30.0%	30.4%	19.6%

児童（生徒）質問紙No.62（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・理科の授業の内容はよく分かりますか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	52.4%	57.0%	59.1%
	中学生	26.1%	25.7%	15.2%

・教科の学習についての質問（No.46、54、61、62）において「当てはまる」と回答した士別市の児童（生徒）の割合は、全国及び全道と同様に中学生で低い傾向が見られますが、士別の中学生では、その割合が特に低くなっています。

(7)令和6年度調査で見られた傾向や課題について

①平日の家庭学習について

令和6年度調査では、中学生の普段（月～金曜日）の「家庭での学習時間が少ない」「全くしないという生徒が2割近くいる」などの課題が見られました。

【児童生徒質問紙 R6年度 No.21 R7年度 No.17（小・中共通）】					
・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）					
選 択 肢		R6年度		R7年度	
		小学生	中学生	小学生	中学生
1	3時間以上	2.8%	0.0%	8.0%	4.4%
2	2時間以上、3時間より少ない	1.4%	4.4%	13.6%	12.2%
3	1時間以上、2時間より少ない	50.7%	23.9%	38.6%	16.7%
4	30分以上、1時間より少ない	32.4%	31.0%	25.0%	33.3%
5	30分より少ない	12.7%	22.1%	9.1%	21.1%
6	全くしない	0.0%	17.7%	5.7%	12.2%

・R6年度、7年度ともに「1時間以上（1～3）」と回答した小学生は、中学生よりも多い状況です。

・「2時間以上」（1～2）と回答した中学生はR7年度は15％程度に増えています。

・「全くしない」と回答した中学生が減少しています。

*** 中学生の家庭学習（月～金曜日）の状況が向上傾向にあります。**

②平日のICTを活用した学習について

令和6年度調査では、SNSや動画視聴の時間に比べて「ICTを学習に活用している時間が少ない」という課題が見られました。

【児童生徒質問紙 R6年度 No.4 R7年度 No.18 (小・中共通)】					
・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PCやタブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）					
選 択 肢		R6年度		R7年度	
		小学生	中学生	小学生	中学生
1	3時間以上	1.4%	1.7%	1.1%	5.4%
2	2時間以上、3時間より少ない	2.8%	1.7%	4.3%	4.3%
3	1時間以上、2時間より少ない	11.1%	9.5%	11.8%	3.3%
4	30分以上、1時間より少ない	20.8%	19.8%	14.0%	23.9%
5	30分より少ない	36.0%	34.5%	39.8%	37.0%
6	全く使っていない	33.3%	32.8%	29.0%	23.9%

・R6年度、7年度ともに「1時間未満（4～5）」と回答した小学生及び中学生が多く、ICT機器を勉強のために使うことは少ない状況です。

・R6年度、7年度ともに「1時間以上」（1～3）と回答した小学生が15％程度いることから、小学生の活用が進んでいることがわかります。

***家庭学習（月～金曜日）へのICT利用が継続課題となっています。**

11 クロス集計（児童生徒質問紙と各教科）について

クロス集計とは児童生徒質問紙の質問項目と各教科正答率の結果を相関させて集計したものです。国研より提供の80項目のクロス集計から、士別市において質問と正答率に顕著な相関がある12項目（小学校国語の正答率70%以上を目安）について取り上げています。

士別市の小学生・中学生の正答率は各教科ともに全国平均を越えています。このクロス集計では士別市の正答率を更に上回る数値は緑太字で表記しています。

相関関係が高く見えるものでも、対象となる児童生徒数が少ない場合は参考値として扱っていません。

【再掲】令和7年度 各教科の結果

小学6年生の平均値	正答率（％）		
	国語	算数	理科
全 国	66.8	58.0	57.1
士別市	68.2	58.8	61.6
中学3年生の平均値	正答率（％）・IRT		
	国語	数学	理科IRT
全 国	54.3	48.3	503
士別市	55.3	50.8	507

(1) 自尊感情・承認欲求について

(1) 各等感情・才能欲求について

質問No.	・自分には、よいところがあると思いますか。					
小 5						
中 5						
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)		
				国語	算数	理科
1	当てはまる	54	61.4	72.1	62.5	63.6
2	どちらかといえば、当てはまる	27	30.7	62.4	52.4	59.3
3	どちらかといえば、当てはまらない	6	0.8	55.7	58.8	53.9
中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)・IRT		
				国語	数学	理科IRT
1	当てはまる	31	34.4	60.6	60.9	535
2	どちらかといえば、当てはまる	44	48.9	56.8	48.9	503
3	どちらかといえば、当てはまらない	12	13.3	38.7	33.9	446

質問No.						
小 6		・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。				
中 6						
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)		
				国語	算数	理科
1	当てはまる	66	75.0	71.7	61.5	64.9
2	どちらかといえば、当てはまる	18	20.5	58.7	53.8	52.9
中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)・IRT		
				国語	数学	理科IRT
1	当てはまる	41	45.6	58.9	55.9	517
2	どちらかといえば、当てはまる	43	47.8	51.7	46.0	496

・自尊心・承認欲求に関する質問（No.5、6）で「当てはまる」と回答している児童（生徒）の正答率は国語、算数（数学）、理科ともに（全国平均値を上回る）土別市平均値を上回っています。

→「自尊心を高める」「承認欲求を満たす」指導は学習効果の向上に有効。

（2）読書について

質問No.		・読書は好きですか。				
小 24						
中 24						
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)		
				国語	算数	理科
1	当てはまる	38	43.2	73.7	63.3	64.2
2	どちらかといえば、当てはまる	27	30.7	66.4	56.9	63.6
3	どちらかといえば、当てはまらない	17	19.3	64.7	57.7	58.1
中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)・IRT		
				国語	数学	理科IRT
1	当てはまる	22	24.4	64.3	57.3	539
2	どちらかといえば、当てはまる	25	27.8	56.9	50.1	504
3	どちらかといえば、当てはまらない	24	26.7	53.6	50.6	499

・「読書が好き」に「当てはまる」と回答した児童（生徒）は、国語、算数（数学）、理科ともに（全国平均値を上回る）土別市平均値を上回っています。

→「読書が好きになる取組」は読解力を高め、学習効果の向上に有効。

（3）授業に向かう姿勢について

質問No.		・前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。				
小 31						
中 31						
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)		
				国語	算数	理科
1	発表していた	40	45.5	73.9	67.5	70.0
2	どちらかといえば、発表していた	33	37.5	64.5	51.7	57.2
3	どちらかといえば、発表していなかった	13	14.8	61.3	52.1	51.1
中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)・IRT		
				国語	数学	理科IRT
1	発表していた	21	23.3	65.6	63.8	544
2	どちらかといえば、発表していた	44	48.9	54.4	50.2	506
3	どちらかといえば、発表していなかった	21	23.3	49.0	41.6	480

・授業の発表場面では、資料や文章、話の組立てなどを工夫して「発表していた」と回答した児童（生徒）は国語、算数（数学）、理科ともに（全国平均値を上回る）土別市平均値を上回っています。

→「発表の仕方を工夫させる授業」は学習効果の向上に有効。

質問No. 小 33 中 33	・前年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。					
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)		
				国語	算数	理科
1	当てはまる	33	37.5	72.9	60.6	62.9
2	どちらかといえば、当てはまる	43	48.9	67.3	59.7	61.0
3	どちらかといえば、当てはまらない	11	12.5	59.1	55.1	63.6
中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)・IRT		
				国語	数学	理科IRT
1	当てはまる	14	15.6	66.3	62.9	549
2	どちらかといえば、当てはまる	46	51.1	54.0	50.7	506
3	どちらかといえば、当てはまらない	24	26.7	53.6	45.8	488

質問No. 小 36 中 36	・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。					
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)		
				国語	算数	理科
1	当てはまる	40	45.5	72.5	64.8	69.1
2	どちらかといえば、当てはまる	38	43.2	67.8	56.6	57.9
3	どちらかといえば、当てはまらない	7	8.0	56.0	47.9	42.9
中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)・IRT		
				国語	数学	理科IRT
1	当てはまる	19	21.1	68.4	70.9	597
2	どちらかといえば、当てはまる	40	44.4	57.0	50.3	501
3	どちらかといえば、当てはまらない	26	28.9	47.5	41.3	459

・「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動」や「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげること」に「当てはまる」と回答した児童（生徒）は、国語、算数（数学）、理科ともに（全国平均値を上回る）士別市平均値を上回っています。

→児童（生徒）が既習事項を生かして考えを整理し、授業を振り返って次の学習へとつなげる取組は、学習効果の向上に有効。

質問No. 小 40 中 40	・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。					
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)		
				国語	算数	理科
1	当てはまる	51	58.0	73.9	64.2	67.1
2	どちらかといえば、当てはまる	26	29.5	62.6	54.6	56.6
3	どちらかといえば、当てはまらない	11	12.5	54.0	46.5	49.2
中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)・IRT		
				国語	数学	理科IRT
1	当てはまる	28	31.1	63.3	59.3	525
2	どちらかといえば、当てはまる	51	56.7	52.9	49.0	505
3	どちらかといえば、当てはまらない	9	10.0	46.8	38.5	466

・総合的な学習の時間で「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する」学習に取り組んだことに「当てはまる」と回答した児童（生徒）の正答率は国語、算数（数学）、理科ともに（全国平均値を上回る）士別市平均値を上回り、関連が顕著に見られます。

→総合的な学習の時間では、「自分で課題を立てる」「調べた情報を整理する」「発表する」取組が学習効果の向上に有効。

(4) 教科の学習について

質問No. 小 46 中 46	・国語の授業の内容はよく分かりますか。					
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)		
				国語	算数	理科
1	当てはまる	42	47.7	73.6	62.5	66.0
2	どちらかといえば、当てはまる	41	46.6	65.2	57.3	59.1
中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)・IRT		
				国語	数学	理科IRT
1	当てはまる	18	20.0	65.5	58.1	562
2	どちらかといえば、当てはまる	55	61.1	54.5	49.5	500
3	どちらかといえば、当てはまらない	14	15.6	44.4	45.7	465

・「国語の授業の内容はよく分かりますか。」に「当てはまる」と回答した児童（生徒）は、国語、算数（数学）、理科ともに（全国平均値を上回る）士別市平均値を上回っています。

→国語の授業内容を理解する児童（生徒）の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は、他教科の学習効果の向上に有効。

→国語の授業内容の理解は他教科の学習効果に波及。

質問No. 小57 中57	・算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。					
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)		
				国語	算数	理科
1	当てはまる	53	60.2	72.4	65.0	67.6
2	どちらかといえば、当てはまる	24	27.3	64.9	51.6	55.1
3	どちらかといえば、当てはまらない	10	11.4	57.1	47.5	45.3
中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)・IRT		
				国語	数学	理科IRT
1	当てはまる	29	32.2	67.5	67.8	554
2	どちらかといえば、当てはまる	33	36.7	50.4	48.9	498
3	どちらかといえば、当てはまらない	23	25.6	49.4	35.7	469

質問No. 小58 中58	・算数（数学）の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。					
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)		
				国語	算数	理科
1	当てはまる	34	38.6	73.9	68.6	69.7
2	どちらかといえば、当てはまる	25	28.4	71.1	56.3	58.1
3	どちらかといえば、当てはまらない	22	25.0	59.2	49.1	53.5
中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)・IRT		
				国語	数学	理科IRT
1	当てはまる	27	30.0	63.8	67.9	546
2	どちらかといえば、当てはまる	36	40.0	55.8	48.1	504
3	どちらかといえば、当てはまらない	16	17.8	47.3	43.8	488

・「算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。」に「当てはまる」と回答した児童（生徒）は、国語、算数（数学）、理科ともに（全国平均値を上回る）士別市平均値を上回っています。特に中学校では「当てはまる」以外を回答した生徒の正答率との差が大きくなっています。

・「算数（数学）数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。」に「当てはまる」と回答した児童（生徒）は、国語、算数（数学）、理科ともに（全国平均値を上回る）士別市平均値を上回っています。また国語では小学校・中学校ともに「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童（生徒）も士別市平均値を上回っています。

→算数（数学）の問題の解き方が分からないとき、あきらめずにいろいろな方法を考える学習姿勢は、他教科の学習効果に波及。

→算数（数学）の授業で説明する活動は、国語の学習効果に波及。

質問No. 小59 中59	・小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしていますか。					
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)		
				国語	算数	理科
1	当てはまる	49	52.3	73.2	66.5	67.5
2	どちらかといえば、当てはまる	29	33.0	67.3	53.8	57.0
3	どちらかといえば、当てはまらない	9	10.2	57.9	49.3	58.8
中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)・IRT		
				国語	数学	理科IRT
1	当てはまる	15	16.7	66.2	76.0	590
2	どちらかといえば、当てはまる	45	50.0	58.3	57.0	519
3	どちらかといえば、当てはまらない	22	24.4	39.8	29.1	448

・「小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしていますか。」に「当てはまる」と回答した児童（生徒）は、国語、算数（数学）、理科ともに（全国平均値を上回る）士別市平均値を上回っています。特に中学校では「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒も士別市平均値を上回っています。

→工夫して計算しようとする学習姿勢は、他教科の学習効果の向上に波及。（特に中学校では顕著。）

質問No. 小68 中69	・理科の授業では、問題に対して答えがどのようなものか、自分で予想（仮説）を考えていますか。					
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)		
				国語	算数	理科
1	当てはまる	52	59.1	72.1	63.7	66.1
2	どちらかといえば、当てはまる	24	27.3	64.3	53.4	55.9
3	どちらかといえば、当てはまらない	7	8.0	62.2	43.8	53.8
中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)・IRT		
				国語	数学	理科IRT
1	当てはまる	23	25.8	63.4	60.9	530
2	どちらかといえば、当てはまる	46	51.1	55.6	52.9	506
3	どちらかといえば、当てはまらない	17	18.9	47.1	38.8	500

・「理科の授業では、問題に対して答えがどのようなものか、自分で予想（仮説）を考えていますか。」に「当てはまる」と回答した児童（生徒）は、国語、算数（数学）、理科ともに（全国平均値を上回る）士別市平均値を上回っています。

→理科の授業で予想（仮説）を考えながら学習に取り組む姿勢は、他教科の学習効果の向上に波及。

12 まとめと課題

士別市の小学生は、国語・算数・理科ともに正答率が全国平均、全道平均を上回ったことは、児童が当該学年で身に付けるべき資質・能力の基礎的・基本的内容の理解度や活用力がおおむね身に付いていると捉えられます。しかし国語では問題別の記述式で全国平均、全道平均を下回り、算数では領域別で「図形」以外の4領域が下回っています。また理科においては「エネルギー」を柱とする領域で全国平均を下回っています。

士別市の中学生も、国語・数学ともに正答率が全国平均・全道平均を上回っています。理科については正答数、IRTスコアともに全国値を上回り、良好な結果を得ています。しかし国語、数学ともに問題別の記述式で全国平均を下回っています。

各教科の学習では、記述式の問題についての解答方法について継続的な指導が必要です。その際「自分の考えをまとめて書く」「分かった点や、よく分からなかった点を整理して書く」「情報を集め整理して書く」「発表原稿を書く」などを取り入れる学習に効果があることが、本年度のクロス集計から分かります。

「児童生徒質問紙」「学校質問紙」による学習状況の調査では、多くの質問項目から北海道教育委員会が『調査結果のポイント』で取り上げている質問項目について士別市の結果と比較しています。詳しい内容は「9 質問紙調査の結果について」を参照願います。

児童生徒質問紙の質問項目と各教科の正答率を相関させたクロス集計では、士別市の正答率と関係が顕著な項目を取り上げています。各学校においては自校の児童生徒との関わりが深い項目について分析し、一層の授業改善等を進める必要があります。

13 今後の対応

(1)今後の学習に向けて

調査教科（国語、算数・数学、理科）における特に課題傾向と考えられる学習内容について

【国語】

前年度までの調査結果と比べ、小・中学校ともに、記述式問題の正答率及び無回答率は改善傾向にあります。しかし、「条件に合わせて書く」問題は依然として課題となっています。

(2)

木村さんは、「資料1」を読み返して言葉の変化について自分が一番なっとくしたことを、「資料2」、「資料3」、「資料4」に書かれています。あなたが木村さんなら、どのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）

- 言葉の変化についてなっとくしたことを「資料1」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- なっとくした理由を「資料2」、「資料3」、「資料4」の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

四 今年美術展では、昨年美術展に会場した小学生の感想をもとに内容を工夫しています。中井さんは、そのことを【ちらし】（更新版②）の□の部分に書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

【ちらし】（更新版②）

第一中学校 美術展

毎年、秋に行っている第一中学校の美術展のお知らせです。
私たちが美術の時間につくった作品を展示します。どれもかいいしんの出来です。
今年は、中学生による作品の説明や小学生向けの体験コーナーもあります。

日時 令和7年11月15日（土） 10時～16時
場所 第一中学校 体育館
会場図

体験できる時間（各回30分間）
①10時～ ②11時～ ③12時～ ④13時～
中学生と一緒に、好きな色のタイルを貼って自分だけのペン立てをつくるができます。

第一小学校6年生のみなさんへ

条件1 今年美術展の【工夫】のA、Bから1つ選び（どちらを選んでもかまいません。）、それと結びつく小学生の【感想の一部】をAからUまでの中から1つ選び、それぞれ塗りつぶすこと。

条件2 条件1で選んだ、今年美術展の【工夫】と小学生の【感想の一部】との関係が分かるように、接続する語句や指示する語句を使って書くこと。

【工夫】

A 作品に込めた思いや作品をつくる過程について、中学生が、来場者の求めに応じて説明する。
B 昨年はおみやげにしていたペン立てを、今年は体験コーナーを設けて、小学生につくってもらう。中学生は、美術の時間に学んだことを生かし、手助けや助言をする。

【感想の一部】

A どうやってあんなすばらしい作品をつくったのか知りたくなりました。美術でどんなことを学べるのかが楽しみです。
I いろいろな作品が展示されていて楽しかったです。思いのこもった作品が多いように感じました。
U おみやげにペン立てをもらえてよかったです。手づくりだと聞いてびっくりしました。私もつくってみたいです。

問題①・小学校

問題②・中学校

問題①（小学校）は、複数の資料を関連付けて解答する問題です。一つの資料だけを取り上げて記述し誤答となっている結果（23%）が見られます。今後の学習では、複数の資料を関連付けて理解する学習活動を積極的に取り入れることが大切です。例えば、資料にある語句や情報を囲んだり線でつないだりしながら、どの部分が関係しているかを視覚的に整理する指導を通して、情報を結び付けて読む力を養うことなどが効果的な学習方法となります。

問題②（中学校）も同様の問題ですが、さらに自分の考えを根拠と結び付けて解答する問題となります。条件1・2のいずれも満たさない誤答（63%）が、解答類型に表れています。今後の学習では、事実や事柄を具体的に示して表現する力を高めることが大切です。例えば、資料にある数字や具体例を引用したり、根拠となる部分を自分の言葉で言い換えたりする活動を通して、説得力のある表現方法を養うことが重要です。また、接続語や指示語を適切に用いながら、考えと根拠を論理的に結び付けて表現する練習も効果的です。

【算数・数学】

前年度までの課題であった、題意に合う数学的思考によって解答を導き出す問題や、証明問題は依然課題傾向です。一方で、「理由」「方法」等を説明する記述式問題については、小・中学校ともに改善されてきており、記述式問題の正答率は全国・全道の平均値より高い項目が多く、無回答率も低くなっています。

0.4は の40個分、0.05は の5個分です。
 $0.4 + 0.05$ の計算は、 をもとにすると、 $40 + 5$ を使って考えることができます。

上の にはすべて同じ数が入ります。 に入る数を書きましょう。

保健室にある新品のハンドソープには、ハンドソープの液体が240 mL入っています。

新品のハンドソープには、ハンドソープの液体が240 mL入っています。
 新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを知るためには、240 mLの他に何がわかればよいですか。

下の **ア** から **エ** までの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

ア プッシュ分のハンドソープの液体の量	3 mL
イ プッシュするときにおす長さ	2 cm
ウ あさひさんが1日にプッシュする回数の平均	8回
エ あさひさんが手を洗うときにかかる時間の平均	60 秒

(3) 次の図3のように、平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上に、 $BE = DF$ となる点E、Fをそれぞれとります。

図3

さらに、次の図4のように、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとすると、四角形AGCHも平行四辺形になります。

図4

図4において、四角形AGCHが平行四辺形になることは、2組の向かい合う辺がそれぞれ平行であることを示すことで証明できます。四角形AGCHが平行四辺形になることを証明しなさい。ただし、四角形FCEAが平行四辺形であることはすでにわかっていることとします。

問題⑤・中学校

問題③[上] ④[下]・小学校

問題③（小学校）は、数の相対的な大きさを共通する単位〔本問題では0.01をもとにして〕を捉えて、小数の加法計算をするという問題です。0.1または1を基にする誤答が15%あり、今後の学習では、数の表し方や位取りの仕組みに着目させることが重要です。特に、共通する単位をもとにして計算を考える活動を積み重ねることで、計算の意味を理解し、確実に処理できるようにすることが求められます。

問題④（小学校）は、解答を導くために必要な事柄は何かを問われている問題です。誤答割合（27%）にも表れているように、題意を理解できていない児童は少なくありません。今後の学習では、必要な数量に着目できるよう言葉や図、式などに関連付けながら、題意や解答をイメージできることが重要となります。

問題⑤（中学校）は、課題である証明問題〔平行四辺形になることを証明〕です。正答率が最も低く（28%）、無回答率も最も高い（28%）結果でした。今後の学習では、まず証明の方針を立てる練習を重ねることが大切です。その上で、仮定から分かることや結論にいたるまでに必要な事柄を整理し、推論を数式や言葉で表現できるようにする指導を充実することが求められます。

上記以外の課題として、小学校では「はかりの目盛りを読む」問題で誤答が目立ちました。今後は、最小目盛りの大きさに着目し、大きな目盛りや小さな目盛りが表す重さを捉える活動を積み重ねることが効果的な学習方法となります。

中学校では「外角」や「相対度数」などの数学的用語の理解が不十分で誤答につながっていました。今後は、用語を覚えるだけでなく、その意味を正しく理解し、実際の問題解決に活用できるようにすることが重要です。授業の中で用語を使って説明したり、仲間と話し合ったりする活動を取り入れることで、用語を使いこなす力を伸ばすことが求められます。

【理科】

理科は3年に1度の調査であり、今回調査の全体の特徴は以下のとおりです。

小・中学校ともに無回答率が全国より低く、最後まで考えて答える姿勢が定着してきています。小学校の正答率や中学校のIRTスコアが全国を上回るなど学力面での成果が見られました。一方で、中学校では理科に対する肯定的な意識（得意・好き・分かる）が全国値を下回っています。今後は、学力の定着を基盤に、理科の学習を楽しめる授業を工夫し、意欲や関心を高める取組が求められます。

(2)「人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、かね（ベル）が鳴る」のは、どのような回路でしょうか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 2 3 4

問題⑥・小学校

問題⑦・中学校

問題⑥（小学校）は、説明図を基に電気の流れの仕組みを理解して、ベルが鳴る回路を選択する問題です。回路の一部に電気を通さない部分があると電気が流れないことを理解し、条件を満たすか判断する力に課題が見られました。

今後は、学習で得た知識を活用し、児童が自ら設定した目的に基づいて実験やものづくりを行い、体験的に学習内容を理解することが大切です。また、自らが考え・試し・見直す視点や活動の位置付けも重要となります。

問題⑦（中学校）は、電気回路に関する知識を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想する問題です。電圧と電流の関係が比例関係になるという「オームの法則」が理解できていないと正答に結び付かない問題とも言えます。実験を通してオームの法則を実感を伴って理解できるようにすることが重要です。

今後は、観察や実験を通して知識を活用し、表現する活動を充実させることが大切です。特に、中学校では科学的根拠をもとに予想・検証する活動につなげることが効果的な学習方法となります。

【仮説】

図1の回路で実験を行ったとき、回路の中の温度センサーには、オームの法則が成り立つ。

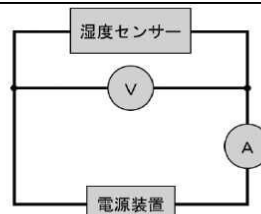


図1

(1)

【仮説】が正しい場合、どのような結果が得られればよいが、最も適切なものを1つ選びなさい。

☐ 電圧の大きさ (V)	0.5	1.0	1.5
電流の大きさ (mA)	1.0	1.5	2.0

☐ 電圧の大きさ (V)	0.5	1.0	1.5
電流の大きさ (mA)	0.5	1.0	1.5

☐ 電圧の大きさ (V)	0.5	1.0	1.5
電流の大きさ (mA)	1.5	1.5	1.5

☐ 電圧の大きさ (V)	0.5	1.0	1.5
電流の大きさ (mA)	3.0	1.5	1.0

(2)授業改善へのヒント

【国語の学習】

①学習のゴールを明確にし、読む・書く・話すを関連付けた学習を進める。

例) 物語文を読んだ後に登場人物の心情を整理し、自分の考えを短くまとめて発表する。

②複数の資料を関連付けて理解する力を養う。

例) 資料にある語句や数字を囲んだり線でつないだりしながら、どの部分が関係しているかを視覚的に整理する。

③自分の考えを根拠と結び付けて表現する練習を積む。

例) 資料の数字や具体例を引用したり、根拠となる部分を自分の言葉に言い換えたりする。

④接続語や指示語を適切に用いて、考えと根拠を論理的に結び付ける練習を行う。

例) 「なぜなら」「したがって」などの接続語を活用した短文練習を重ねる。

⑤語彙量を増やす学習を日常化する。

例) 新聞記事や本から新しい言葉を見つけ、1人1台端末で意味や用例を調べ、共有する。

⑥中学校では、事実や資料を根拠にした文章を書く力を育てる。

例) 資料の内容を引用しながら、自分の意見を段落構成でまとめる。

【算数・数学の学習】

①問題文から「何を求めているのか」を的確に読み取る力を高める。

例) 問題文の中で条件と問いを色分けし、立式や説明に生かす。

②数の表し方や位取りの仕組みに着目し、共通単位に基づく計算の理解を深める。

例) 0.01を基準に小数の加法を考える練習を繰り返す。

③題意を理解して必要な数量を見抜く力を育てる。

例) 言葉や図、式を関連付けながら、解答をイメージさせる活動を取り入れる。

④記述問題や証明問題に段階的に取り組み、無回答を減らす。

例) 証明問題では方針を立てる練習を重ね、仮定から分かることを整理し、推論を数式や言葉で表す。

⑤数学的用語を正しく理解し、説明に活用できる力を育てる。

例) 「外角」「相対度数」などの用語を使って友達に説明する学習を取り入れる。

⑥学習内容の定着を図るため、章末問題や過去のテストを解き直し、誤答原因を確認する。

【理科の学習】

①單元ごとの学習の由来を理解させ、知識を体系的に整理する。

例) 「この分野は観察・実験で理解するもの」「法則を数値で扱うもの」などを確認する。

②電気回路の理解を深めるため、知識を活用して実験やものづくりを行わせる。

例) 自分で考えた回路を作り、ベルが鳴るかどうかを確かめる。

③オームの法則などの基本原理を実感を伴って理解させる。

例) 電圧と電流の関係を実験で測定し、比例関係をグラフで確認する。

④観察や実験を通して、予想・検証・考察につなげる活動を重視する。

例) 仮説を立て、結果を予想し、実験後にデータをもとに振り返る学習を行う。

⑤興味や関心を引き出す導入を工夫し、学習意欲を高める。

例) 身近な現象やニュースを取り上げて「なぜ?」と問いかけ、探究心を喚起する。

⑥実験記録やグラフ化を丁寧に行い、科学的に説明する力を養う。

例) データを表やグラフに整理し、結論を文章でまとめる。

14 おわりに

本市の児童生徒は、全国学力・学習状況調査において全国平均値を上回る成果を示し、課題に粘り強く取り組む姿勢が着実に育まれてきています。これは、日々の授業改善や教職員の不断の努力、そして地域や家庭のご理解とご協力の賜物であります。

しかし一方で、学習意欲や自己肯定感に課題を抱える児童生徒も少なくなく、単なる学力向上にとどまらず、「学ぶことの楽しさ」や「自分を認める心」をいかに育んでいくかが今後の大きな課題となっています。

各学校においては、全国や全道との比較に加えて、自校の成果と課題を正しく省察し、教育活動に反映していくことが求められます。特に、生活経験や社会的事象をもとに課題を設定し、興味・関心の高まる中に基礎・基本の定着を図ったり、学びをもとに課題を解決し社会参画への意欲を高めたりなど、社会の一員としての資質能力を育むこと、また義務教育9年間を通じて学びの連続性を大切にした取組も大切な視点です。さらに、学習が苦手とする子どもへの丁寧な指導・支援と人的・物的な学習環境の整備が重要です。

教育委員会は、士別市まなびフォーカスでお示ししているとおり、ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進を図るとともに、教職員研修や学校訪問を通じて授業改善を支援してまいります。あわせて、地域資源を活かしたキャリア教育やふるさと教育を充実させ、子どもたちが将来に希望をもち、自らのよさや可能性を見出すことができる環境を整えていきます。

また、学校・家庭・地域が一体（まなびフォーカス②）となり、学習習慣や生活習慣の定着を図ることも欠かせません。家庭教育支援事業や「士別ふるさと体験広場」「チャレンジ寺子屋」などの取組を生かし、社会教育との連携を強化していきます。こうした学社融合の取組を通じ、子どもたちが自信をもち、夢の実現に向かって歩み出せるよう、全力で指導・支援してまいります。

【参考ホームページ】

令和7年度全国学力・学習状況調査の報告書・集計結果について（国立教育施策研究所）

<https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/>



令和7年度全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント（北海道教育委員会）

<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gks/230537.html>

